



森ボラ
通信

第252号 2023年5月20日発行
NPO法人 **北海道森林ボランティア協会**
URL <https://www.shinrin-npo.info/>
札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラルズ生活研究センター
TEL (fax.): (011) 816-7010
E-mail: hshinrinv2002@nifty.com

■ 活動報告

◆ 2023年度第1回親子森林教室活動報告

——8年目となる活動がスタート——

原稿執筆に先立ち「親子森林教室」の生い立ちを調べてみました

始まりは2014年1月に策定された「澄川環境林基本計画」の基本方針として「積極的な教育支援を行う」ことを掲げ、その基本目標として「自前で親子森林教室を計画し、森の活動を通して次世代を担う子供たちに環境保全の心を芽生えさせ、育んでいく」ことを決めました (20周年記念誌から引用)

2014年に計画し、翌年シミュレーションを経て2016年にスタートしてから、色々な取り組みを試行し

ながら、今ではすっかり定着した「子供たちによる森林保全の実践」は全国に類のない取り組みとして、今では毎回定員を超える申し込みが来る大人気の教室に育った事に諸先輩たちのこれまでの努力に敬服しながら本題に入ります。

今年度は18名の森しり隊員(12家族)が参加して第8期目の親子森林教室をスタートする事になりました。

4月23日(日)曇り空で少し肌寒い(気温10℃)中、9時頃から期待に胸を膨らませた子供と、少し心配な顔つきの親御さんが集まり始め、それを見ている協会員の表情(まるで孫を見ているような)が、いつもより明るく見えました。

今回は3組5名が欠席で、参加者は子供13名 保護者13名に協会員12名、総勢38名で開催されました。9時30分から開校式が始まり全員でラジオ体操の後、樞棒代表幹事が歓迎の挨拶を行い、一年間四季折々の森を十分に楽しんで欲しいとの話が有りました。

最初に松藤さんがユーモアを交えた内容で協会員を紹介後、参加者は家族ごとに自己紹介を行い保護者は参加の意気込みを語り、子供は自然の中で遊び、虫を採るのが楽しみという話が多い中で、「キノコは苦手」と言う子供がいたりして、自己紹介の終わりには、子どもたちの緊張もほぐれてきた様子です。

次に高橋さんが活動の目的、活動地の紹介、1年間と1日のスケジュールを説明した。その中で活動地の広さを18ホールのゴルフ場が入るとの説明には「そんなに広いのか!」と驚きの声が親から聞かれました。

大窪さんからは活動上の約束事と安全に対する説明があり、特に安全に関する注意事項を詳しく説明されました。矢野さんが新規会員に向けてネームプレート作成の説明が有り、今年はペンを貸し出し家に持ち帰って作成することが連絡されました。清澤さんからは活動ガイドのメモ欄と採取袋の活用について説明が有りました。

開校式が終わったところで午前最後のプログラムは4班に分かれて「早春の森歩き」です。コースは集合場所の広場からキャリコ橋、樹木園、上流橋を渡って集合場所に戻る約1.3キロのコース



です。木や花、川、動物の糞やエゾサンショウウオの卵などを観察し上流橋のホダ場でシイタケを採取し、更に昼休みに広場の近くで採取したシイタケと合わせてお土産にして持ち帰ってもらいました。

昼食を食べてからキノコの植菌体験です。まずは荒船さんが子供たちを前にして動物、植物、菌の関係からキノコとは何か、どんな働きをするか、そしてシイタケの栽培方法（原木シイタケと菌床シイタケの違い）についてイラストを用いて説明がありました。

植菌作業は同じ4班に分けて行われ、私は矢野班長のグループで二組の親子（4人）を担当しました。

その内のひと組は昨年経験された親子で、手慣れた手付きでホダ木に穴を開けて菌を打ち込んでいました。今年初めて参加した親子は穴を開けた時にドリルの回転を止めてしまいドリルの歯が抜けなくなって苦労していましたが、コツを掴むと上手く出来ました。昨年経験した親子は割り当ての本数（シイタケ1本、ナメコ1本）を直ぐに終わらせ追加で植菌をして、余裕の表情でした。植菌を終えたホダ木は各自が名前と日付を書き込み、仮伏せを行いました。

最後は子供たちから今日の感想を聞き全員で記念撮影をして今年度最初の親子森林教室は雨に当たる事も無く無事終了しました。

私の役割は矢野さんの補佐でしたが、森歩きの最中に聞かれた質問（宿り木）に上手く答えられず知識の無さを痛感しました。私も今年で森ボラ4年目なので、諸先輩を見習い木の名前や花の名前等を勉強しなければと思い帰路につきました。（文・丸尾）

◆ 澄川南小4年生 学習支援

5月11日木曜日 澄川南小学校4年生約50名が北地区へマイツリーと春の森観察のため訪れました。あいにくの曇り空と肌寒い気温でしたが、「虫が怖いから早く帰りたい」とつぶやく子にとってはうってつけの屋外活動日となりました。

マイツリーと決めた木に樹名と特徴を記した手製のプレートを立て、3年生の時から季節ごとに森を訪問していた子供たちは、先生から「マイツリーを観察して」と声がかかると班ごとにそれぞれの木に分かれていきます。

どんな観察をしているのかと近寄ってみると、まずは幹の直径を測り、樹名のプレートを写真に写してあとは手持ち無沙汰にあたりをきょろきょろ。どの子も木を見上げるのはほんの数秒。林床のほうに視線が向きがちのようです。確かに、澄川の森の木は葉も花もはるか高所にあり子どもたちの目線で観察するのは難しい木ばかりです。



指導の先生から「分からないことは森の専門家であるボランティアさんに聞いてください」と事前にお話があったことを思い出し、私も何かアドバイスをと思いましたが、質問されてもわからないことだらけで冷や汗とともに途方に暮れるばかり。マイツリー観察は森に親しみを感じてもらう第一歩の素敵な取り組みです。それをサポートするには、森への深い愛情と知識その上に相応の事前準備が必要であると強く感じた半日でした。（文・老田）



◆科学と直感について

植物を理解するとはどういうことだろうか。植物や森林のことをよく知りたいと思っているが、その方法が分からない。植物の名前を知り、その形態、生態の特徴を知ったとしても、それは植物を理解することになるのだろうか。

人に対しても同じことが言える。ある人の名前や風貌、経歴などを知ったとしても、それだけでその人のことを理解した、とは言えないのではないだろうか。

理解の仕方には2種類の方法があると思う。一つは科学的に対象を分析する方法、もう一つは、経験的、直感的に相手を知る方法。

慣れ親しんでいるのは前者だ。植物のことを知ろうとすると、植物を科学的に分析することが多い。なら、植物を経験的、直感的に知るにはどうすればいいだろうか。

それは、対象、相手と直接かかわりをもつことが必要な気がする。相手とのコミュニケーションを行うことで、単なる知識とは違う身体的な経験が得られるだろう。

また、科学と直感について森ボラの活動で印象に残っていることがある。整理伐で伐る樹を選ぶとき、この選木作業は木の数や太さなどの計測によって行われるものかと思っていたが、見た感じの印象や感覚も大きく関わっているようだった。



根本的な基準は科学的な理由に基づいているが、それを踏まえたうえで現場では直感的な方法も取り入れられているように感じた。

科学は画一的なものだが、生きものに一つとして同じものはない。森の中で木々と臨機応変に向かい合っていくためには科学的な分析だけでなく、直感的な見方も必要なのではないかと思った。

こんな感じで今考えていることを書きましたが、まだまだ分からないことは多いので、これからも森ボラの活動に参加して考えを深めていきたいです。(文・岸)

(事務局追記:岸さんは兵庫県出身、北大文学部4年生、森ボラ活動1年目)

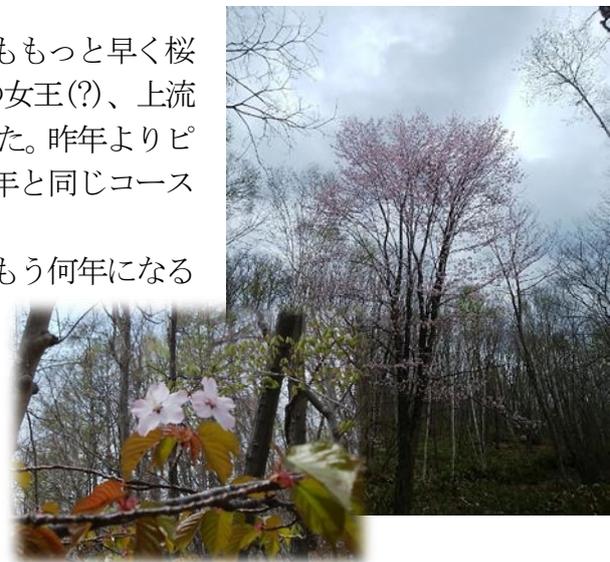


エゾヤマザクラ(蝦夷山桜・バラ科)

去年も暖かく春が早かったと思いましたが、今年はそれよりももっと早く桜の開花も早まりました。4月29日観察会があり、澄川の桜の女王(?)、上流橋へ向かうB1地区三叉路の所、定点で今年も又写真を撮りました。昨年よりピンクの花数が多く、木が大きくなっている印象です。移動し例年と同じコースでE-4地区避難小屋裏手の山路を尾根に登りました。

この尾根に登るとE-1~E-6まで全体見渡せます。この地区はもう何年になるのでしょうか、間伐が終了されていて森全体が落ち着いた感じになっていました。

開花の時期と観察日のタイミングが良く、山全体ピンクが連なり、今年も又満足のいく観察会でしたが、キタコブシには時期が遅かったです。(写真・文/西野(澄))



■ 今月の幹事会

出席者(5/10):大窪・荻田・樫棒・加藤・清澤・西野(澄)・松藤・矢野・早坂・平・老田

1. 2023年6,7月活動スケジュール(6月幹事会6/7(水)):了承
2. 2023年4月会計報告:了承
3. 2023年度森林・山林多面交付金事業4月報告:了承
4. 2023年度親子森林教室第1回報告:隊員13名、保護者13名、協会員12名、総勢38名の参加。
5. 第21回通常総会(R5第1回理事会)開催結果報告:了承
6. R5年度北海道山林種苗組合青年部苗木提供:7樹種320本の提供。
7. 現場報告
 - ・標準木調査まとめ:2回目調査(2021年12月～2023年3月)359本の調査終了。
 - ・コクワ、山葡萄の棚作成状況:E-2、北地区、管理地区で順次作成。了承
 - ・整理伐選木基準(案):整理伐、受光間伐を行う基準を整理。了承
8. その他
 - ・キャリコ荷台ガード購入:アルミ縞板。フルカバータイプ。了承
 - ・会計ソフトの導入:「NPO法人新会計基準」に即した会計ソフト。
 - ・新型コロナウイルス感染防止に向けた森ボラの取組指針改定:感染対策分類が5類になり、それに合わせた森ボラ独自の指針を改定。了承
 - ・混合ガソリンの運搬方法:青色携行缶を使用。了承
 - ・私有樹木の伐採:伐倒の安全に留意。了承

■ 活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
4月17日(月)	澄川	-	荒天のため活動中止
4月20日(木)	澄川	16	ホダ木準備、北地区整備、上流橋補修
4月23日(日)	澄川	12	第1回親子森林教室(散策、植菌)
4月24日(月)	澄川	4	札幌市みどりの管理課視察立会(北地区)
4月25日(火)	野幌道有林(国有林)	12	87小班境界杭打設、ササ刈り、稚樹マキガ、国有林確認
4月27日(木)	ラルズ生活研究センター2F	11	臨時幹事会:総会資料確認
4月29日(土)	澄川	20	植菌、集材、木道補修、観察会
5月1日(月)	澄川	12	植菌、材出し、テーブル・イス補修
5月4日(水)	澄川	16	材出し、テーブル・イス補修、A-4区標準地設定・計測
5月6日(土)	澄川	9	B-4区木道補修、ハルニレ移植準備、コクワ・ブドウ棚作成
5月8日(月)	札幌エルプラザ2F	25	第21回総会
5月10日(金)	ラルズビルBF1	11	幹事会
5月11日(木)	澄川	15	E-8区材・ゴミ出し、A-4区樹高測定、テーブル・イス補修
5月14日(日)	澄川	14	ハルニレ移植・炭焼き準備、苗畑整備、薪材集積、森の案内